CREDIT

◆審査委員会
審査委員長　松葉 直彦（テレビマンユニオン）

ドキュメンタリー部門 審査委員
戸田 有司（オルタスジャパン）
成瀬 貴紀（クリエイティブネクサス）
山本 妙（パオネットワーク）

情報・バラエティ部門 審査委員
冨田 大介（シオン）
堀江 昭子（ハウフルス）
光原 朋秀（mK5）

ドラマ部門 審査委員
内丸 摂子（東阪企画）
近見 哲平（テレバック）
八巻 薫（オッティモ）

◆新人賞
審査委員長　大野 光浩（えすと）
審査委員　浅井 千瑞（メディアミックス・ジャパン）
桑山 ゆうり（ジッピー・プロダクション）
澤田 和平（共同テレビジョン）
三浦 渉（東京ビデオセンター）

◆総務大臣賞
審査委員長　吉村 文雄（東映）
審査委員　大場 吾郎（佛教大学社会学部）
金川 雄策（ヤフー）
品田 英雄（日経 BP）
千野 成子（Empire of Arkadia）
原 真（共同通信社）

第 39 回 ATP 賞テレビグランプリ受賞式
2023 年 7 月 6 日（木）
東京プリンスホテル 2F プロビデンスホール

司会・進行
佐藤 俊吉（NHK）
久冨 慶子（テレビ朝日）

主催
一般社団法人全日本テレビ番組製作社連盟

後援
総務省、経済産業省、
日本放送協会、日本民間放送連盟

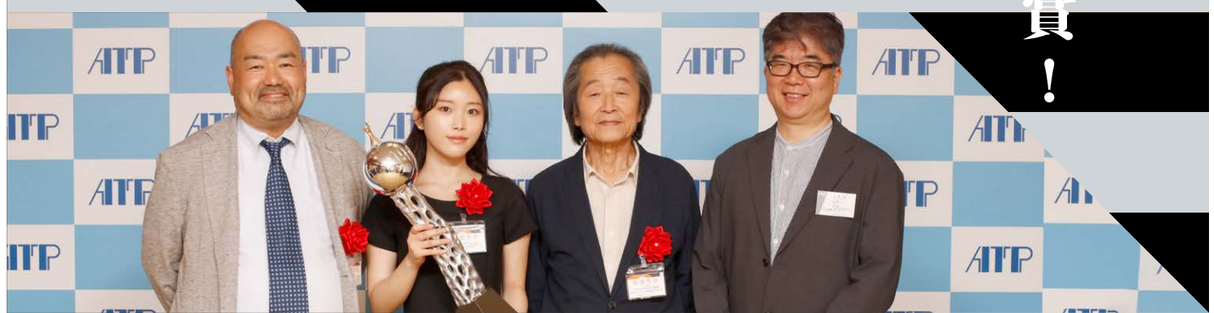
ATP AWARD

2023

ASSOCIATION OF ALL JAPAN
TV PROGRAM
PRODUCTION COMPANIES
AWARD

創り手が選ぶ
創り手のための賞！

▶▶ 第39回ATP賞テレビグランプリ
受賞作を振り返る



THE 39TH GRAND PRIX

ETV特集
ブラッドが見つめた戦争　あるウクライナ市民兵の8年
オルタスジャパン、NHK エデュケーショナル／ NHK E テレ

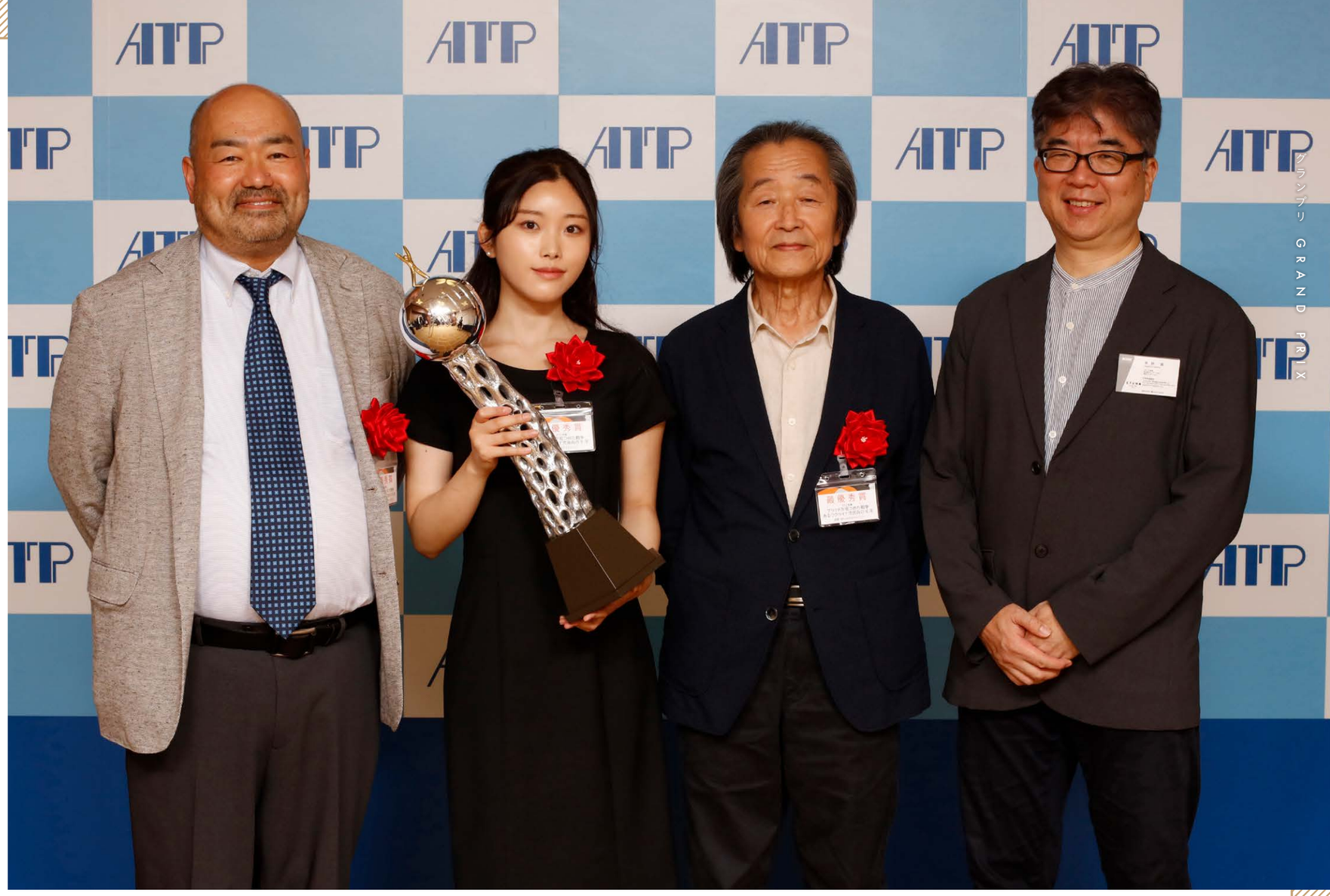
グランプリ
THE 39TH GRAND PRIX

ドキュメンタリー部門 **最優秀賞**

ETV特集

ブラッドが見つめた戦争
あるウクライナ市民兵の8年

オルタスジャパン、NHKエデュケーショナル／NHK Eテレ



プロデューサー　吉岡 攻(オルタスジャパン)
ディレクター　西野 晶(オルタスジャパン)
プロデューサー　三浦 尚(NHK エデュケーショナル)
　　東野 真(NHK)

受賞者コメント

このたびはグランプリに選んでいただき、誠にありがとうございました。この番組はウクライナの市民兵であるヴォロディーミル・デムチェンコ(ブラッド)が撮影した映像を編集した番組です。今も市民兵として戦っている本人に、この栄誉を伝えます。そして一刻も早くウクライナに戦争のない日常が戻ることを願います。開戦後に発令された国家総動員令によって、一般市民が兵士になりました。彼らに「命をかけても戦うのはなぜ？」と聞きたかったのです。リサーチの中でブラッドに出会い、膨大なやりとりをしてその理由を問いました。彼の映像が教えてくれるのは、長い戦争状態で心に強く刻まれた日常の儚さ。国と国との戦争が奪った当たり前の日常を取り戻すために戦うという信念。彼の言葉の一つ一つに私は気づかされました。放送を通して視聴者の方とこの経験を共有することができ、関わってくださった全ての方に感謝しています。

ディレクター　西野 晶(オルタスジャパン)

講評

戦争は人の人生を支配する。ウクライナの市民兵ブラッドは10年前に始まったロシアとの戦いで心を病む。世界を放浪し5年をかけて自分を取り戻した矢先にロシアが侵攻、再び「自分を捨てる」と戦場に戻っていく。仕事も結婚も破壊された若者の「怒り」「葛藤」「諦観」、戦争のリアルが人生を通して描かれる。映像はブラッド自身が撮影、SNSで関係性を築き、ロケをせずに作られた番組は制作手法の新しい可能性も見せてくれた。

成瀬 貴紀

最優秀賞
THE 39TH BEST AWARD

情報・バラエティ部門

一軒家丸ごと壊す

テレビ朝日映像／テレビ東京

総合演出　阿部 裕太（テレビ朝日映像）
ディレクター　野村 昌彦（テレビ朝日映像）
川島 成友（モルトプロダクション）
中島 浩喜（オフィス論）
古田 卓也（カイエン）
チーフプロデューサー　小平 英希（テレビ東京）
プロデューサー　近添 有賀（テレビ朝日映像）

受賞者コメント

3年前、華やかな特番がひしめく年末の夜に、ひっそりとはじめたこの番組。MCの山里亮太さんから「地味じゃない？需要ある？」と心配された番組が、賞を頂き大変驚いています。老舗「最後の日」の朝、祐天寺の女将（91）は「今日も無事に働かせて頂きたい」と涙ながらに呟きました。川口の主人（86）は「明日から妻に恩返しがしたい」と教えてくれました…。閉店・解体には物語がありました。山里さん、需要もあったみたいです！

総合演出　阿部 裕太（テレビ朝日映像）

講評

今年イチ泣いた。どんな映画より泣いた。店がどれだけお客さんに愛されていたのか？店の人がどれだけ懸命に働いてきたのか？を、見事に表現出来ている事が凄い。泣かせる部分もやり過ぎない絶妙なトーン。踏み台のカットも、お客さんが幸せそうに食べる姿も、心に寄り添った取材者でなければ撮れない良い画。大混雑の営業最終日に根気よく取材された事に敬意を表します。少しずつ心の扉を開いていくかの様な構成も秀逸でした。

堀江 昭子

最優秀賞
THE 39TH BEST AWARD

ドラマ部門

フジテレビ系木曜劇場 silent

AOI Pro.／フジテレビ

脚本家　生方 美久　／　音楽　得田 真裕（ワンミュージック）
監督（メイン）　風間 太樹（AOI Pro.）
監督　髙野 舞（フジテレビジョン）、品田 俊介（フジテレビジョン）
プロデューサー　唯野 友歩（AOI Pro.）
アシスタントプロデューサー　佐々木 萌（フジテレビジョン）
有馬 里香（AOI Pro.）
小栗 佳世子（AOI Pro.）
撮影　片村 文人（片村写真事務所）、山本 宣明（山本宣明写真事務所）

受賞者コメント

はじめて第1話の初稿を読んだときの感動をいまも覚えています。その感動が私たちの挑戦への原動力となりました。そうして実在する街や電車、レコード店を舞台に、出演者のすばらしいお芝居が物語を確かに彩っていきました。また見逃し配信や予告編などの宣伝物に字幕をつけるなどの新たな取り組みができたのも、たくさんのご尽力の賜物だと思っております。このたびは栄えある賞まで頂き、心より感謝申し上げたいと思います。

プロデューサー　唯野 友歩（AOI Pro.）

講評

中途失聴者と周囲の人々のジレンマを繊細に、最上級の恋愛ドラマに仕立て上げた。中でも、タイトル通りにあえて音楽を使わず手話の音だけが聞こえてくるシーンは圧巻だ。現実的なロケ地やグッズを使用したことでリアル感も増し、これまでのドラマ作りに一石を投じたことも特筆すべきだろう。地上波ドラマ離れと言われる若者を連れ戻し、聖地巡礼といった社会現象まで巻き起こした今作は、審査員全員一致での最優秀賞受賞である。

内丸 摂子

優秀賞 OUTSTANDING PERFORMANCE AWARD

ドキュメンタリー部門

BSI特集 竹花センセイ！ キミたちに語るボクのこと

NHKエデュケーショナル / NHK BSI

受賞者コメント

LGBTQ当事者である竹花先生の覚悟のカミングアウト。生徒からは『スッキリしたやろ？』と想定外のツッコミが。その反応に拍子抜けしつつも、信頼関係の頼もしさと時代が大きく変化していることを実感しました。ディレクターの私をクラスの一員のように受け入れてくれた生徒たち、カミングアウトの取材を承諾してくださった竹花先生と加藤先生、パートナーのはるさんに心より感謝し、受賞の喜びを分かち合いたいと思います！

撮影・ディレクター　安里 愛美

講評

学校の取材を経験したことがある者ならば、この番組がいかに困難な取材を行っているかを理解できるだろう。加えて、コロナへの対応もあったろう。そして何より、竹花先生と生徒たちの心情に迫る取材は、簡単にできるものではない。いかにディレクターが誠実に真摯に取材対象と向き合ったかを、この番組は証明している。観る者を現場に立ち会わせてくれるという、ドキュメンタリーの理想形を成し得た、稀有な番組だと思う。

戸田 有司

語り　井手上 漠(ディスカバリー・ネクスト)
タイトルデザイン　濱田 美沙子　／　音響効果　細見 浩三
リサーチ　山口 美紀　／　編集　外舘 綾(ビデオ・ベディック)
撮影＆ディレクター　安里 愛美
制作統括　堀川 篤志(NHKエデュケーショナル)、梅内 庸平(NHK)

ドキュメンタリー部門

「通信簿の少女を探して」小さな引き揚げ者　戦後77年あなたは今

TBSスパークル / BS-TBS

受賞者コメント

6年前に出会ってからずっと、古本に挟まっていた通信簿が、ディレクターの私を通して何を伝えたいのかを考えています。通信簿が語る日本史からこぼれ落ちた小さな町の、声なき一市民の戦中戦後史…「(外地に)残っても地獄、(日本に)帰ってきても地獄」の“引き揚げ”の現実。証言者が少なくなるいま、その声に耳を傾け、集め、伝え続けることが私の役目の一つだと思っています。通信簿の旅はまだ続きます。

企画・演出　匂坂 緑里
(TBSスパークル)

講評

ディレクターが手にした古本に挟まっていた通信簿の持ち主を探す過程。市井の人の「ファミリーヒストリー」かと思いきや、これはディレクターの執念の物語でもある。旅人のパートや、時に横道に逸れていく部分を、観る者がどう受け止められるかで評価は分かれるだろう。しかし、最後に「少女」に直接会うことができた時に、素直に「良かった」と思うことができたのは、そこまでに積み上げてきた物語の成果に違いない。

戸田 有司

(企画・演出)ディレクター　匂坂 緑里(TBSスパークル)
プロデューサー　尾賀 達朗(TBSスパークル)
ディレクター　渡辺 晃介(クラッキ)
蓑野 由季(TBSスパークル)

情報・バラエティ部門

リモート繋いだら、偉人のプレゼンいきなり始まった。

TBSスパークル / フジテレビ

受賞者コメント

この度は素晴らしい賞を頂き、ありがとうございます。「歴史上の偉人がリモートでプレゼンしている世界線」をテーマに、フジテレビ編成部の長嶋大介さん、放送作家あだち昌也さんと議論を重ねて作り上げた番組です。自分たちが学生時代にワクワクしながら観ていた深夜番組のような“尖り”を目指しました。12名の出演者の皆さん、今井沙羅さんをはじめとするスタッフが一丸となり取り組んだ番組の受賞、本当に嬉しく思います。

演出・プロデューサー　谷 知明
(TBSスパークル)

講評

作り手の遊び心がこれほどまでに存分に詰まった番組は久しぶりに見た。事実をリスペクトした上でのデフォルメ具合も心地よく、リモートという今の時代ならではの切り口で、新しい形で歴史を学ぶことができるこのコンテンツは、歴史に興味を持てない人や、勉強に苦手意識を持つ子どもたちにとっての救世主だとも感じた程。どんどん引き込まれていくプレゼン。演者のやりきる姿は、制作陣の熱量生き写しそのものに感じた。

冨田 大介

演出・プロデューサー　谷 知明(TBSスパークル)
ディレクター　前川 侑也(TBSスパークル)
深澤 由香(TBSスパークル)
温井 佳未(TBSスパークル)

情報・バラエティ部門

業界怪談　シーズン3　中の人だけ知っている

ドキュメンタリージャパン、アウトサイド、NHKエデュケーショナル / NHK BS4K

受賞者コメント

この度は、このような過分な賞を頂き有難うございます。「業界怪談」は2020年からドキュメンタリージャパンで取り組んだ初めての長編ホラーシリーズです。20～60代の多彩な演出陣を中心に如何にして「怖さ」を楽しみつつ、真摯且つリアルに怪談を伝えられるのか？試行錯誤しながら多くのスタッフと共に制作しました。ご協力頂いた出演者の皆様に感謝します。これを励みに新しい番組作りにスタッフ一同、挑戦していきたいと思います。

制作統括　新津 総子
(ドキュメンタリージャパン)

講評

タイトルに偽りなし。が、ただの怖い話やウラ話とも違う。美容業が＜素性の知らない人の髪に毎日触れる＞仕事だったり、宅配業が＜誰かの求めに応じて知らない家を訪ねる＞仕事だったりするのを“知らなかった”わけではないからだ。ただ、その素朴な事実がもつ生々しさを噛みしめると、何だかゾッとしてくる。そんな新鮮な「怪談」を披露する業界の中の人たちには凄みと敬意を感じた。これは、新しいお仕事探訪番組である。

光原 朋秀

制作統括　新津 総子(ドキュメンタリージャパン)
森 博明(NHKエデュケーショナル)
斎藤 直子(NHK)
ディレクター　原 佑基(ドキュメンタリージャパン)、石川 二郎(アウトサイド)
企画　檀 乃歩也(ドキュメンタリージャパン)

ドラマ部門

ふたりのウルトラマン

東京ビデオセンター、NHKグローバルメディアサービス / NHK BSプレミアム、NHK BS4K

受賞者コメント

ウルトラマンの脚本家、金城哲夫さんのマブイ（魂）。金城さんに遅れて円谷プロに入った上原正三さんの強い意志。怪獣たちを愛した円谷一さんの厳しいやさしさ。太平洋の要石という地政学的な意味を持つがゆえに戦地になった沖縄島の記憶。悲しみはやさしさへ、情け深さはヒューマニズムにつながる。「ヤマトゥーンカイ、負キティ、ナイミ（日本に負けてたまるか）」というウチナンチュ（沖縄人）の心が全国に響いたことが喜び。

脚本・監督　中江 裕司
（沖縄在住映画監督）

講評

膨大な資料とインタビューに基づいて作られたであろう熱量を感じる作品でした。沖縄のリアルな問題が見事に絡み合い、ファンタジーなSF特撮作品の魅力を浮かび上がらせています。自分たちが作りたい作品への情熱、わがままだと言われようと、生きたいように生きた、そのエネルギーに溢れる人たち。俳優たちの芝居も素晴らしかったです。夢中になって頑張ることがいつしか古いと言われるようになってしまった現代に、普遍的で大切な何かをしっかり伝えてくださいました。

近見 哲平

脚本・監督　中江 裕司 ／ 撮影　平林 聡一郎（テレコムスタッフ）
照明　田中 利夫 ／ 音声　森 英司 ／ 美術　竹内 悦子 ／ 編集　宮島 竜治
音響効果　細見 浩三 ／ プロデューサー　新井 真理子
制作統括　中村 芙美子（東京ビデオセンター）、
茂木 明彦（NHKグローバルメディアサービス）、横山 隆宏（NHK）

ドラマ部門

正月時代劇　いちげき

TBSスパークル / NHK 総合、NHK BS4K

受賞者コメント

この度は、このような栄えある賞を頂き、誠にありがとうございます。「時代劇」に挑戦するにあたり、入社したての新人から勤続30年を超えるベテランまで、試行錯誤し、協力し合ってこの作品を作り上げました。「俺は、古い人間だ。今さら生き方は変えられん」50歳を超えた私にはちょっぴり切ないセリフです。それでも精進することを諦めず、皆さんのお力をお借りしながら、さらに面白い作品を生み出していきたいと思います。

演出　松田 礼人
（TBSスパークル）

講評

時は、幕末の混乱期。百姓たちが武士軍団に急ごしらえされ、雲の上の存在だった武士を相手に闘いを挑む。奇想天外ながらもエキサイティングで、価値観が覆るさまは痛快だった。キャスティングの妙、脚本の面白さ、ラストの殺陣は見事である。神田伯山の講談が導入に留まらず、実際に講談を観ている観客の脳内を映像化したかのような展開とその迫力にも度肝を抜かされた。まさに笑いあり涙あり、世界に通じるドラマである。

内丸 摂子

脚本　宮藤 官九郎（大人計画）／ 演出　松田 礼人（TBSスパークル）
制作統括　樋口 俊一（NHK）、加藤 章一（TBSスパークル）
プロデューサー　塩村 香里（TBSスパークル）
原作　松本 次郎（リイド社）、永井 義男（リイド社）
音楽　遠藤 浩二（サウンドキッズ）

ドラマ部門

日曜ドラマ　ブラッシュアップライフ

AX-ON / 日本テレビ

総務大臣賞とW受賞！

受賞者コメント

「人生を何度もやり直す女性の話」というファンタジー設定の中で、見る人に共感してもらうため、本作では主人公が就く仕事や、時代ごとの流行について徹底的に取材を行いました。放送を重ねるごとに、多くの方々から「わかる」「懐かしい」という反響を頂き、スタッフ・キャストの試行錯誤が正しい方向に向かっていることを実感できました。結果的にこのような素晴らしい賞を頂き、作品をご覧頂いた皆様に心から感謝申し上げます。

プロデューサー　柴田 裕基
（AX-ON）

講評

人生をもう一度やり直せたら・・・誰の心にもある願いを、壮大な世界観で極上のエンターテインメントに昇華した秀作。緻密な構成と人間観察に長けたバカリズムさんの脚本、安藤サクラさんら実力派の俳優陣、美術、映像、ロケ場所と細部にまで拘った絵作りが相まって、他にはない強い魅力を放つドラマでした。テレビドラマ愛に満ちたエピソードも満載、ありふれた日常がきらめいて見えてくる、斬新なドラマの制作陣に敬意を表します。

八巻 薫

脚本　バカリズム（マセキ芸能社）／ 音楽　fox capture plan（Playwright／disk union）
演出（1/2/3/4/8/9/10話）　水野 格（日本テレビ放送網）
演出（5/6話）　狩山 俊輔（日本テレビ放送網）／ 演出（7話）　松田 健斗（BRUISE）
チーフプロデューサー　三上 絵里子（日本テレビ放送網）
プロデューサー　小田 玲奈（日本テレビ放送網）、榊原 真由子（日本テレビ放送網）、
柴田 裕基（AX-ON）、鈴木 香織（AX-ON）

今年の司会はテレビ朝日久富アナとNHK佐藤アナ

NHK専務理事 山名啓雄様

民放連会長 遠藤龍之介様

総務大臣賞発表の様子

総務省 松本剛明大臣

ATP理事長 福浦与一

奨励賞 INCENTIVE AWARD

ディレクター・撮影　藤田 成
（日本電波ニュース社）
編集　髙橋 慶太（ビデオ・ベディック）
音響効果　渡辺 真衣（TSP）
プロデューサー　上田 未生
（日本電波ニュース社）
チーププロデューサー　西村 陽次郎
（フジテレビジョン）

ドキュメンタリー部門

ザ・ノンフィクション

美咲をさがして ～帰りを信じた家族の3年～

日本電波ニュース社 / フジテレビ

受賞者コメント

つらい事件と向き合い続ける中で、密着取材を受けてくださったご家族の皆様に、改めて感謝を申し上げます。どこかで見ていると信じた美咲さんのため、また多くの行方不明者家族を支えたいとの願いから、ご家族は取材を受けると覚悟を決め、最後までその意志を貫かれました。行方不明の娘を必死に探す母が、なぜ世間からのひどい誹謗中傷にさらされねばならなかったのか、私たちも、視聴者の方々も問われる番組となりました。

プロデューサー　上田 未生
（日本電波ニュース社）

講評

近年珍しいほどのメディアスクラムを経験し、行方不明女児の母親でありながら犯人視までされた主人公。ディレクターは、世界で一番テレビカメラを怖れるはずの主人公に近づくことを許され、数十台のカメラが取り囲んでもわからなかった主人公の気持ちとその後の人生を、たった1台のカメラで明らかにしたと思う。多くのメディアが失墜させた彼女の尊厳を取り戻してくれる番組で、報道番組としての意義も大きい。

山本 妙

ディレクター　山本 真裕（ドキュメンタリージャパン）
小林 未緒（ドキュメンタリージャパン）
可香谷 慧（ドキュメンタリージャパン）
取材　平岡 亜美（ドキュメンタリージャパン）
制作統括　橋本 佳子（ドキュメンタリージャパン）
川口 潤
（NHKグローバルメディアサービス）
柳沢 晋二（NHK）

ドキュメンタリー部門

BSIスペシャル

ウクライナ 戦火のクリスマスプレゼント

ドキュメンタリージャパン、NHKグローバルメディアサービス / NHK BSI

受賞者コメント

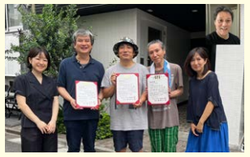
軍事侵攻が始まってすぐに、在日ウクライナ人の方々の取材を始めました。クリスマスという大切な日にも関わらず、故郷の家族を心配しながら苦しい胸の内を語ってくれた方々に感謝をしたいと思います。戦闘が長期化する中で「ウクライナのことを忘れないで欲しい」と語る女性の言葉が印象に残っています。スタッフ一同、一刻も早い平和が訪れることを祈りながら、この現実を伝えるために取材を続けていきたいと思います。

ディレクター　山本 真裕
（ドキュメンタリージャパン）

講評

ロシアのウクライナ侵攻から1年近く経ち、世間の関心も少し薄れる中、私たちはウクライナの苦境を伝える方法を考えあぐねていた。伝えるテーマも、現地に赴く方法も、見つけるのが難しい状況で、本番組の制作陣は、ウクライナの人々にとって家族と過ごす大事な日である「クリスマス」を切り口に、一家離散中の人々の苦悩を、ウクライナの状況を、日本にいながら見事に描き出した。そのアイディアと手法に賞賛の拍手を送りたい。

山本 妙



撮影・ディレクター　伊勢 朋矢
（プラネタフィルム）
編集　太田 一生（エール）
音楽（作曲）　ロケット・マツ
制作統括　村井 晶子（NHK）
牧野 望（NHK）
鶴谷 邦顕（NHKエデュケーショナル）

ドキュメンタリー部門

ETV特集

人知れず表現し続ける者たちⅣ

プラネタフィルム、NHKエデュケーショナル / NHK Eテレ、NHK BS4K

受賞者コメント

西村一成さんと僕は同い年。中学の頃の友達に会いに行くような感覚で、名古屋に通いました。絵を描いて、縁側に座ってタバコを吸って、また絵を描いて…という一成さんの日常を眺めていると、なぜだか僕は安心します。編集の太田さんもラッシュをするうちに一成さんを好きになってしまったようです。番組を観てくれた人にも、ゆっくりと、じわじわと、一成さんの魅力を味わってもらえたら嬉しいです。奨励賞ありがとうございます。

撮影・ディレクター　伊勢 朋矢
（プラネタフィルム）

講評

ドキュメンタリーはこれほどシンプルなものだったのかと改めて気付かされた。障害のあるアーティストの1年、ナレーションやテロップがほぼない映像は、まるで「音」で構成されているように感じられた。息遣い、唸り声、流れる絵の具、それぞれが強く印象に残る。次第に「静かな間」に意味が生まれ、主人公とディレクターとの「緊張感」が立ち上がる。そしてラストは対峙した時間が救いへと収斂していく。素晴らしい番組でした。

成瀬 貴紀

語り　三宅 民夫 ／ 構成　田代 裕
ディレクター　細原 亮太（SKIPステーション）
小林 亜希子（デジタルSKIPステーション）
撮影　桜田 仁 ／ 撮影　足立 真人
音声　柳 さおり、富永 憲一、真野 貴子
編集　竹内 由貴 ／ 映像技術　池田 聡
音響効果　後藤 俊輔 ／ コーディネーター　中川 東子
リサーチャー　濱田 綾、岩間 丈倫
取材　田中 陽一、田嶋 陽子（デジタルSKIPステーション）
宮田 清二（デジタルSKIPステーション）
プロデューサー　小川 さつき（デジタルSKIPステーション）
山内 俊介（デジタルSKIPステーション）
制作統括　大鐘 良一（NHK）
茂木 明彦（NHKグローバルメディアサービス）
川田 カヲル（デジタルSKIPステーション）

ドキュメンタリー部門

街角ピアノ スペシャル ハラミちゃん パリを行く

デジタルSKIPステーション、NHKグローバルメディアサービス / NHK BS4K

受賞者コメント

定時番組として放送されている「街角ピアノ」のスピンオフとして企画された本番組。放送開始から5年がたち、コロナ禍の3年間は海外にも出られず苦労しましたが、国内でも徐々にストリートピアノを設置する動きが広まってきました。ハラミちゃんという強力なインフルエンサーと偶然に番組の収録で出会ったことが、今回の企画につながりました。「海外のストリートピアノに向き合いたい」というハラミちゃんの素直なモチベーションに支えられた番組になったと思います。

制作統括　川田 カヲル
（デジタルSKIPステーション）

講評

音楽番組が減った今、改めて「音楽には力がある！」と教えてくれる番組だった。パリの街角でピアノを弾いた瞬間、人々が足を止め、踊りだし、言葉も人種も軽々超えていく。ハラミちゃんもパリのピアニストも圧倒的に上手いけれど、上手く弾こうとしていない。まるで会話のように演奏で心の扉を開き合い、感情が音になっていく。演奏そのものがヒューマンドキュメントであり、「音楽っていいな」と心から思わせてくれた。

成瀬 貴紀

ディレクター　西山 千鶴（NHKエンタープライズ）
演出　関 正和（スローハンド）
スタジオ構成　杉山 奈緒子
プロデューサー　田中 孔一
（NHKエンタープライズ）
伊豆田 知子（スローハンド）
茂原 雄二（スローハンド）
制作統括　髙間 大介（NHKエンタープライズ）
真藤 忠春（NHKエンタープライズ）
原 良太朗（NHK）

情報・バラエティ部門

ヒューマニエンス　40億年のたくらみ
“文字”　ヒトを虜にした諸刃の剣

NHKエンタープライズ、スローハンド / NHK BSプレミアム、NHK BS4K

受賞者コメント

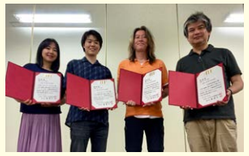
「文字と進化」というテーマをやりたい。何気ない私の発言に、長年科学番組に携わってきたスタッフ陣が、無言になり、頭を抱えていたのを今でも覚えています。制作が進むにつれ、このテーマを成立させる難しさを痛感しました。手探りの中、何とか形にしようと、新しい視点やアイディアをくれた制作陣、また、根気強く取材に付き合っていただいた専門家の先生方には感謝しかなく、その方々がいたからこその受賞だと思っています。

ディレクター　西山 千鶴
（NHKエンタープライズ）

講評

「人間は文字に不慣れ」という打ち出しに刺激的なインパクトがあった。なぜ文字が生まれ、その文字で何を失ったのか。両面での追求がとても興味深く、膨大な取材量と文字の魅力を伝えたいという作り手の熱意を凄まじく感じた作品。そして、島国・日本ならではの苦悩・葛藤を抱えながらも、伝えたい想いによって文字を使い分け、豊かな表現方法を可能にする我が国の文字の歴史に、誇りを持ちたいとさえ思わせてくれた番組。

冨田 大介



プロデューサー・ディレクター　小林 直希
（テレビマンユニオン）
制作統括　牧野 望（NHKエデュケーショナル）
ディレクター　佐野 達也（丶丶 film&media）
プロデューサー　加茂 わかな
（NHKエデュケーショナル）

情報・バラエティ部門

アート疾走　金と黒の本木雅弘

テレビマンユニオン、丶丶（ten-ten）film&media、NHKエデュケーショナル / NHK 総合、NHK BSプレミアム

受賞者コメント

“「琳派」の世界を 本木雅弘さんに五感で味わってもらう―”最初の企画書にはそう書かれていますが、それが本木さんのドキュメンタリーへと変貌していくとは…想像もしませんでした。本木さんが撮影の最後に呟いた「許すという行為で、より自由になれるってことなのかな」という言葉は、表現者の端くれとして、胸に響くものがあります。本木さんの“疾走”と制作陣の“伴走”がこのような賞に繋がったことを嬉しく思います。

プロデューサー・ディレクター　小林 直希
（テレビマンユニオン）

講評

「調子に乗れない自分が息苦しい」「妻に言われる。前勉強で損してるって」。アート番組の案内人（モックン）にそんな自己開示をさせていいのか？と思ったのも一瞬。これは、美術史上屈指の“予定不調和”を誇る、琳派との正しい向き合い方なのかもしれない。撮影法ひとつとっても、いちいち普通じゃない。作品の謎解きも奔放。筆使いをダンスにも喩える。琳派ではないが、作り手なら色々と「勝手に継承」したくなる自由な番組。

光原 朋秀

プロデューサー　原 良太朗(NHK)
松本 康男
(NHKエデュケーショナル)
金 秦希
(NHKエデュケーショナル)
中川幸美
(クリエイティブネクサス)
ディレクター　山崎 成実(クリエイティブネクサス)
構成　櫻井 昭宏(GOMMA)
音楽効果　大庭 弘之
造形　服部 弘弐(工房アテリア)

情報・バラエティ部門

ヴィランの言い分　ゴキブリ

クリエイティブネクサス、NHKエデュケーショナル / NHK Eテレ

受賞者コメント

水の中でも泳げたり、潰してみても死ななかったり、お腹の中に歯があったり、超不衛生な体に新薬のヒントが秘められていたり…とても身近な存在なのに調べてみると知らないことの連続。リアルな造形にこだわった被り物を喜々として被ってコメントしてくれた国内外の先生方の『熱いゴキブリ愛』のおかげでネタを深掘りすることができました。スタッフ一丸となって制作した番組を評価して頂き大変光栄です。ありがとうございました！

ディレクター　山崎 成実
(クリエイティブネクサス)

講評

ゴキ○リをまさかのエンタメ化。リアルG様の撮影は修羅場だったでしょうし、教授にコスプレをさせちゃう度胸も凄い。番組にしようと思った勇気とGの神秘を深掘りした熱意に拍手です。Gに成り切った役者さんと、Gスーツを作った美術さんもブラボー。久保田アナの新境地？も面白かった。楽しい構成のおかげで、お茶の間は時々悲鳴を上げながらも、熱中していたに違いない。私も見終わる頃にはすっかりGが好きに……ってなる訳ない。

堀江 昭子

演出　若松 節朗
制作統括　谷口 卓敬(NHK)、
八木 康夫(テレパック)
プロデューサー　沼田 通嗣(テレパック)
原作　相場 英雄 ／ 脚本　戸田山 雅司
音楽　住友 紀人

ドラマ部門

特集ドラマ　ガラパゴス

テレパック / NHK BSプレミアム

受賞者コメント

放送直後から、SNS等を通じ、想像以上の大きな反響を頂きました。このドラマのテーマである「格差社会」ひいては「日本の貧困化」は本来、ニュースやドキュメンタリーで訴えられるべきなのでは…翻って、ドラマだからこそ、身近に切実に、多くの視聴者の心に響いたのかもしれません。
改めて、テレビドラマの可能性を大いに感じました。今回の受賞が、より一層のこれからの励みとなりました。ありがとうございました。

制作統括　八木 康夫
(テレパック)

講評

現代日本の雇用政策、派遣労働者問題に鋭く切り込んだ原作を、ドラマ化した製作者の英断に深く敬意を表します。身元不明遺体の真実を追うミステリーと、被害者をめぐるヒューマンドラマが交錯する物語に強く引き込まれ、織田裕二さん、伊藤英明さんの緊迫感ある対決シーンも大変、見応えがあり、心震えました。社会的弱者に光をあて、問題提起をする、テレビドラマの意義を強く感じた、素晴らしい作品でした。

八巻 薫

© U-NEXT

企画/CD　原 央海(電通)
プロデューサー　宮崎 陽央(U-NEXT)
渡邊 宏
(ジッピー・プロダクション)
内田 安妃子
(ジッピー・プロダクション)
プロデューサー/宣伝　山田 奈那子(電通)
演出　田島 与真(ジッピー・プロダクション)
脚本　政池 洋佑、平岡 達哉

ドラマ部門

Paraviオリジナル　人生ドラマ劇場

クロちゃんずラブ　やっぱり、愛だしん。

ジッピー・プロダクション / Paravi

受賞者コメント

「クロちゃんの半生をドラマに…むちゃくちゃ面白そう！」そう言って仕事を受けてくれた脚本家の政池さん、平岡さん、主演の野村さん、ヒロインのみなさん、本当にありがとうございました。「とにかく笑えるドラマ」を目指し、スタッフ・キャスト一丸となって制作しました。企画の原さん、宮崎さん・山田さん、とっても面白い仕事をありがとうございました！奨励賞を頂けたのは、みなさんのおかげです。

演出　田島 与真
(ジッピー・プロダクション)

講評

まずは、クロちゃんを演じ切った野村周平さんと、クロちゃんをモデルにドラマを作ろうと決めた製作者の志に頭が下がります。毎回ヒロインが出てきては振られる寅さんのような展開であるのに、どうしてこんなにも清々しくないのか。それがこのドラマが持つ不思議な「力」なのだと思います。本人が毎回出てきては当時を思い出して涙するのを、皆、クサしながらそれでも楽しそう。こんなご時世に、力を抜いて観られるこんな作品があることにホッとしました。

近見 哲平

監督　吉見 拓真
脚本　横幕 智裕
音楽　ベンジャミン・ベドゥサック
(松竹音楽出版)
プロデューサー　清水 啓太郎(松竹撮影所)
上江洲 茉央(BS松竹東急)

ドラマ部門

À Table！(ア・ターブル)

～歴史のレシピを作ってたべる～

松竹撮影所 / BS松竹東急

受賞者コメント

この度は、栄えある賞を頂きまして誠に光栄です。何か大きな事件が起きることのない静かな物語の中で、「細やかな感情の機微」や一つ一つの「言葉」に真摯に向き合っていただいた市川さん中島さんほかキャストの皆様に改めて感謝いたします。また、関係者・スタッフの皆様に御礼申し上げます。長い時間と歴史の中で、多くの先人達が「美味しく食べること」にひたすら向き合ってきた情熱と努力に思いを馳せました。

プロデューサー　清水 啓太郎
(松竹撮影所)

講評

マリー・アントワネット、ビスマルク、メソポタミア文明など、教科書でしか触れることのない歴史を料理の観点から語ることで、歴史上の人物がすごく身近に感じられるし、知識欲をそそるドラマでした。光のある画づくりが素敵で、料理自体もとっても美味しそうで食べてみたいと思うこと必至です。2人は芝居をしているのか、アドリブで話しているのか、その境界線も曖昧な気がして、夫婦の日常生活は、単純ではないけれど愛おしくて、観終わってすぐにまたそんな二人に会いたいと思えるドラマでした。

近見 哲平

今年より新トロフィーがお目見えしました

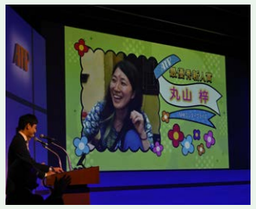
特別賞「タモリ倶楽部」出演のタモリさん

総務大臣賞「ブラッシュアップライフ」出演の永尾柚乃さん

最優秀賞「silent」出演の鈴鹿央士さん

最優秀新人賞＆優秀新人賞

BEST NEWCOMER AWARD



ディレクター

丸山 梓

（NHKエンタープライズ）

ようこそ認知症世界へ

NHK Eテレ

制作統括	大鐘 良一（NHK）
	小谷 亮太（NHKエンタープライズ）
ディレクター	丸山 梓（NHKエンタープライズ）
	藤原 光暁

受賞者コメント

認知症の当事者が何を感じているかを、若い人を含め多くの人たちに知ってもらいたいと思い、明るい番組を目指しました。どのようなトーンにするか悩む日々でしたが、このような賞を頂き嬉しく思っています。取材の中で、当事者の方がおっしゃった一言が印象に残っています。「失敗する権利を奪わないでほしい」。誰だって失敗をする。でも「失敗したら終わり」ではなく、「どうしたら成功に繋げられるか」を一緒に考える仲間がいてくれたら素敵だー　お会いした当事者の方々は、困難に出会う度に様々な工夫をし、前向きに生きる人生の先輩でした。初めての企画だらけで「失敗」だらけの私も寛大に許して下さる、その笑顔の強さに、心が打たれました。困難がある時に工夫を一緒に考えられるような社会。そんな社会を目指して、映像制作を続けたいと思います。ご出演下さった当事者の皆さま、これからも皆さまの背中を追いかけていきます。ありがとうございました。

講評

「この世界の物事をどう見つめるか、その眼差しこそ全てではないか？」と優しくも問う秀作。認知症という暗くなりがちなテーマだが、アニメーションを交え軽妙に仕立てながら、意外な専門家の取材によって人間の奥深さを教えてくれる。そしてインタビューでは当事者と専門家の目線を区別する。だがいつしか、その眼差しが重なり、交じり合う。全ては“違う世界”を“同じ世界”だと描くため。丸山さん、最高に素敵な眼差しでした。

三浦 渉

優秀新人賞

EXCELLENCE NEWCOMER AWARD

制作統括　菊地 章博（仙台放送）
ゼネラルプロデューサー　髙原 康弘（仙台放送）
プロデューサー　丹野 洸兵（仙台放送）、竹内 康人（共同テレビジョン）
勝田 久美子（共同テレビジョン）
演出　竜崎 琢也（共同テレビジョン）
ディレクター　蓑茂 健太郎、西岡 奈美、藤井 雄真（共同テレビジョン）
企画　熊野 修（仙台放送）　／　構成　森 一盛、河野 有、植田 将崇
編成　安永 英樹（フジテレビジョン）

演出

竜崎 琢也　（共同テレビジョン）

仙台放送開局６０周年記念番組

さらばだ、人間たち ～ＡＩからの挑戦状～

仙台放送発　地上波全国ネット

受賞者コメント

歴史ある放送局の周年特番を任せていただき、プレッシャーを感じていましたが、優秀な制作チームに助けられ、賞までいただくことができました。改めて、番組に携わったすべての方に感謝いたします。内容としては、「AIの番組」をどうエンターテインメントとして見せるのか悩みましたが、どの対決も人間とAIそれぞれの強さや意地を垣間見ることができ、スタジオメンバーの熱量も相まって、楽しい番組になったと思います。

講評

AIと人間。誰もが想像する「脅威を感じる結果」の対戦番組に思えたが、意外や意外。なんとも「ほっこり」とした番組に仕上がっていた。結末ありきではなく、やけに平等な視点。「AI」の素晴らしさに感心し、「人間」の柔軟さに感心し、「AI」を生み出し操作する「人間」の「心からの意見」を感じる番組になっていたように思う。この題材を堅苦しくなく「ほっこり脱力気味」に「心に届く」仕上がりにできた人間の力に感動できた。

浅井 千瑞

編成　安永 英樹（フジテレビジョン）
企画・演出　小林 彪架（共同テレビジョン）　／　企画・構成　仲内 力也
構成　相澤 昇、田中 ひろちか（ライトクリップ）
プロデューサー　竹内 康人（共同テレビジョン）
髙橋 優介（共同テレビジョン）、中垣 佐知子
監修　八木沼 邦彦（ロングテイル）

企画・演出

小林 彪架　（共同テレビジョン）

恋愛トキワ荘

フジテレビ、FOD

受賞者コメント

この度はこのような素晴らしい賞をいただき誠にありがとうございます。全く経験がないレギュラー番組の演出という立場でしたが、無事最後まで終えることができました。今回、番組制作にご協力いただいた皆様に改めて感謝申し上げます。この賞を励みに、これからも面白い番組を作っていけるよう尽力して参ります。

講評

「よくある恋愛リアリティー番組、そのイメージを良い意味で覆された。6人の漫画家たちの心情や葛藤を自作の胸キュン漫画で振り返り、リアルと漫画で2度楽しめるのがお得で面白い。例え失恋や失敗をしても、感情を吐き出す先はもちろん漫画。そこがはっきりしているので、悲壮感がなく観やすい。第二弾があれば大変興味があるが、発想豊かな演出でさらに新しい仕掛けや驚きがあることを期待したい。

桑山 ゆうり

ディレクター　渡辺 貴美子(NHKエデュケーショナル)
プロデューサー　田波 宏視(NHKエデュケーショナル)
編集　渡辺 政男(ビジュアルオフィス・善(VOZ))
カメラマン　川下 修司(NHKテクノロジーズ)
塩島 槙人(インフ)

ディレクター

渡辺 貴美子 （NHKエデュケーショナル）

あしたも晴れ！人生レシピ
自由に動けなくても限界は作らない

NHK Eテレ

受賞者コメント

この度は優秀新人賞をいただき、身に余る光栄に思います。今回の企画が通ったのは入社して半年足らずの時期でした。取材もロケも未経験に近い私が放送まで走り続けられたのは、ご出演の三浦さまと中岡さまの多大なご協力と、カメラマンや編集マンをはじめとする制作チームの手厚いサポートのおかげだと、心から感謝しています。今後も真っ直ぐに人や事象に向き合い、価値ある映像を沢山の方々に届けられるよう、精進して参ります。

講評

「どんな人にも可能性があると信じ、心から応援したい」。その真摯な姿勢こそが力強いメッセージを生み出すのだと痛感させられた。さらに障害を抱えた方、90歳の三浦雄一郎さん、そして支える人々の表情がまた良い。限界を作らないことは、生きる喜びに繋がるのだと思い知らされる。私達はいつの間にか自分の限界を勝手に決めてはいないか？それがどんなに不幸なことか、限界を決めぬ者たちの瑞々しい表情がそう語るようだった。

三浦 渉

プロデューサー　白坂 潤一(関西テレビ)
ディレクター　鴨脚 光貴(関西テレビ)、井口 健太郎(IVS41)
大田 善紀(IVS41)

ディレクター

井口 健太郎 （IVS41）

ハリコミマネー　そのお金、何に使うんですか？

関西テレビ

受賞者コメント

優秀新人賞に選出頂き、ありがとうございます。お金の使い道に密着するという、一見上品ではない趣旨の番組ですがそこには私欲や仕事のためだけでなく、他者を思いやる心があり、30分で様々な感情を表現出来たと思います。入社7年目、この賞を頂き初めて自分に自信が持てました。また高校の友人である関西テレビ鴨脚さんと製作した番組が評価され、感無量です。番組に関わる全てのスタッフ、ご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。

講評

純粋に「ATMからお金を引き出す人」にワクワクしました。そして、「令和のキャッシュレス時代に、わざわざ現金を引き出す人って？」という疑問、そこに引っかかりを感じ、番組企画へと繋げたところが素晴らしいと思います。井口ディレクターが、いかに日々の生活の中で“何か企画になるものがないか？”というアンテナを張っているか、想像できました。“ハリコミ”起点に、さらに色んなことにチャレンジしていただきたいです。

澤田 和平

ディレクター　後藤 優佳(東京ビデオセンター)
チーフディレクター　合津 貴雄(東京ビデオセンター)
制作統括　金内 吾郎(東京ビデオセンター)
深須 昭宏(NHK)、尾関 憲一(NHKエデュケーショナル)

ディレクター

後藤 優佳 （東京ビデオセンター）

ニッポン知らなかった選手権 実況中！
第16回ホテルレストランサービスコンクール2022

NHK BSプレミアム

受賞者コメント

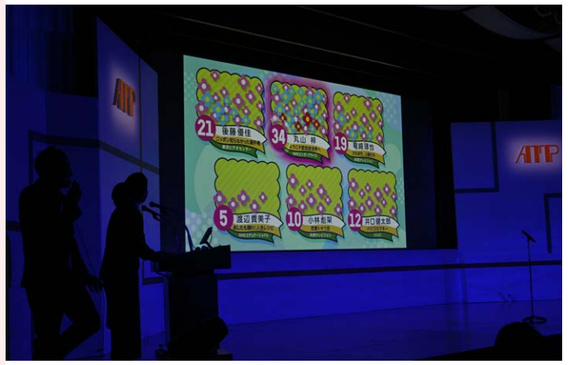
「知らなかった！」編集中何度つぶやいたことでしょう。素材1分1秒に発見があって、まるで宝探しでした。この番組の主人公は、すべての働く人たちです。だから街行く人、1人1人が「みんな知らないところで、それぞれの世界で、何かと戦っているのかもしれない」そう思えて、なんだか頑張れるんです。改めて、取材にご協力いただいた選手の皆様、ご指導いただいた先輩方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました！

講評

“人が全力で挑む姿”に勝る演出はない。まさに手に汗握る展開、プライドをかけた熱い戦いに最後には感動した。それぞれに背負うものがあり、魅力があり、全ての選手に感情移入させられる。かなりマニアックな技術も、視聴者目線を考えた丁寧な見せ方で飽きさせない。取材対象へのリスペクトを大いに感じる作品。ディレクターデビュー1作目とのことだが、今後どれだけ伸びるのか非常に楽しみ。

桑山 ゆうり

優秀新人賞集合写真



奨励新人賞集合写真

奨励新人賞 ENCOURAGEMENT NEWCOMER AWARD

ディレクター　鈴木 総平
プロデューサー　牧 哲雄(ドキュメンタリージャパン)
長谷川 三郎(ドキュメンタリージャパン)
有田 泰紀(日本テレビ放送網)
今村 忠(日本テレビ放送網)
撮影　齊藤 悠太、井手口 大騎 ダグラス(いちまるよん)
編集　藤井 遼介(いちまるよん)
カラーグレーディング　織山 臨太郎(いちまるよん)
音響効果　増子 彰(東京サウンド・プロダクション)

ディレクター

鈴木 総平 （フリーランス）

NNN ドキュメント'22　“テロリスト”とつくる未来　ーソマリア 永井陽右の挑戦ー

日本テレビ

受賞者コメント

テロや紛争のない世界を目指し、ソマリアで元テロリストを社会に復帰させる活動を続けている永井さん。「こんなにすごいことをしている人がいるのか」と衝撃を受けると同時に、どうしようもなく「撮りたい！伝えたい！」と思ってしまいました。後から言語化した理由や想いより、その“どうしようもなさ”が、制作上の数々の困難を乗り越えさせてくれました。そして、番組に力を貸して下さった多くの方々に、心から感謝いたします。

講評

まずは単身で赴いた行動力と制作発信力に敬意を評したい。永井さんを基軸に、テロリストになってしまった若者たちとその後の支援を、浮足立たず真っ直ぐな目線で描けていると感じた。テロリストと称される若者の素顔は屈託のない笑顔。この笑顔を撮れているだけで、こうならざるを得なかった環境、情勢など想像するに固くない背景が見えてくる気がして、問題の根深さを感じた。この先も彼らの関係を発信していって欲しいと思った。

浅井 千瑞

プロデューサー　藤井 裕久(テレビ朝日)
大澤 宏一郎(太陽カンパニー)
演出　山田 俊介(テレビ朝日)
ディレクター　今井 貴大(太陽カンパニー)

ディレクター

今井 貴大 （太陽カンパニー）

朝メシまで。 大阪モノレールの朝メシに密着！

テレビ朝日

受賞者コメント

まずは快く取材を受けてくださった大阪モノレールの皆様に心より感謝致します。多くの方が利用する大都市のインフラを「深夜人知れず支えている」人がいる。そんな日本の今を、若き技術員の実直に働く姿、そして1日の締めである「朝メシ」を幸せそうに頬張る姿を通して少しでも多くの視聴者に伝われば嬉しいなと思って心を込めて作りました。今後も深夜に働く方の「朝メシ」を沢山紹介できるよう地道な取材を続けて参ります。

講評

まずモノレールの軌道桁(レール)のズレを直すという知られざる仕事に驚く。わずか数ミリのズレが、電車に強い揺れを引き起こすのだという。その様子をイラストなど交え分かりやすく丹念に描くのだが、特筆すべきは全てをノーナレーションで行ったこと。これを事前に想定した構成力、現場での取材・演出力が卓越していた。今後は企画力をも持ち合わせ“番組の枠にとどまらない作品”をぜひ期待したい。

三浦 渉

音響効果　三澤 恵美子
編集　渡辺 政男
ディレクター　関田 美央
(NHKエデュケーショナル)
プロデューサー　桶谷 学
(NHKエデュケーショナル)

ディレクター

関田 美央 （NHKエデュケーショナル）

ザ・ヒューマン　和食料理人　笠原将弘　僕を育てた　愛する家族

NHK BS1

受賞者コメント

「刻苦光明必盛大也」。取材で出会った言葉を企画のきっかけに、入社2年目から制作した初めてのドキュメンタリーでした。年末年始も撮影にご協力下さった笠原さんご家族をはじめ、携わって下さった全ての方に心より感謝申し上げます。撮影から編集まで多くの方に支えていただき完成した作品、その間の出会いや学びや失敗、全てが宝物です。「24時間365日、与えられている時間をどう使うのか。」そんな問いと向き合った日々でした。

講評

「料理人・笠原さん」「父親・笠原さん」「夫・笠原さん」「息子・笠原さん」どれも笠原さんの優しく自然な表情が印象的でした。関田ディレクターが、笠原さんとの関係性を丁寧に築いたからこそ引き出せた「表情」だと想像します。取材対象者に信頼され、その懐にどこまで入り込めるかが勝負な世界。今年の元旦を一緒に過ごす、その状況まで笠原さんのご家族にも溶け込んだディレクター力、本当に素晴らしいと思いました。

澤田 和平

企画・演出　柘植 日向子(AX-ON)
プロデューサー　白井 潤(NHK)
大塚 明(AX-ON)
監修ディレクター　糸賀 綾香(AX-ON)

企画・演出

柘植 日向子 （AX-ON）

ミニドキュメンタリー　作曲家の父と私　50歳差で創るアイドルソング

NHK BS1

受賞者コメント

このたびは奨励新人賞を誠にありがとうございます。入社2年目で賞を頂けたことに内心驚きつつ、活躍を見守って下さる方がいることに気の引き締まる思いです。作曲家の父のもとに生まれ23年。好きなものに没頭し続ける父を見て、私も1つでも多くの作品を世に残せたらという思いが強まりました。また父が1つでも多く、人の心に残る音楽を作れるよう応援しています。改めてお力添えを下さった全ての方に深く感謝を申し上げます。

講評

見終わったあとの多幸感をどう表現したら良いだろう。実に微笑ましい。実に辛辣。実に馴れ合い。実にビジネス的。この父にして、この娘ディレクターあり。モノ創りをもがきながらも楽しむ父の背中を見て育ったディレクターが、この先どんな作品を企画し、もがいてもがいて生み出して行ってくれるか、とても楽しみと感じた。一見簡単そうに見える肉親との作品は、十分に客観的でありつつ、二人の関係性を描けていると感心した。

浅井 千瑞

企画・演出　牧野 邦彦(AX-ON)
プロデューサー　菊池 洋輔(AX-ON)
ディレクター　松尾 都弥(AX-ON)
作家　橋本 俊哉

企画・演出

牧野 邦彦 （AX-ON）

フルスイング　芸能人とご対面バスツアー　会いたいさんが乗ってきた！

日本テレビ

受賞者コメント

このたびはこのような賞を頂き、誠にありがとうございます。錦鯉の長谷川さんをターゲットに、ファンの方々を通して他の番組では出したことのない長谷川さんのエピソードや魅力を最大限に引き出すことができたと自負しています。初めての企画・演出を担当した番組で賞を頂けたことを嬉しく思うのと同時に、ご協力頂いた長谷川さんファンの方々・出演者の皆様に感謝申し上げます。この賞に恥じぬよう今後とも精進して参ります。

講評

「会いたいさん」の熱量が、素晴らしかったです。そして「会いたいさん」が、錦鯉・長谷川さんに会いたい理由、その理由を通して知ることができる長谷川さんの素顔、そこに“この番組のオリジナル感”がありました。普段のバラエティ番組で見せる長谷川さんとは違う一面、そこを掘り出した牧野ディレクターの企画力演出力が光っていたと思います。「会いたいさん」の待つ場所に行けるのも「バス」ならではの演出で面白かったです。

澤田 和平

原作　ゆざきさかおみ
脚本　山田 由梨(アプレ)
音楽　伊藤 ゴロー
制作統括　大塚 安希
(メディアミックス・ジャパン)
坂部 康二(NHKエンタープライズ)
勝田 夏子(NHK)
演出　松寄 由衣、中田 博之

プロデューサー

大塚 安希 （メディアミックス・ジャパン）

NHK　夜ドラ　作りたい女と食べたい女　あなたと食べると、もっとおいしい。

NHK 総合

受賞者コメント

「同性愛」を非日常なものや鑑賞物でなく、日常の一部分として描くことを目標に制作しました。原作から映像化を目指した初めての作品でもあるので、思い入れの深い本作で賞をいただき大変嬉しく思います。原作者のゆざき先生をはじめ、様々な試みを認めていただき、共に作り上げてくださった出演者・スタッフの皆様に心より感謝申し上げます。今後も様々な人の生き方を応援する作品を世に送り出せるよう、精進して参ります。

講評

これだけ嫌味のない組み合わせがあるのかと思うほど、主演女優と相手役のバランスが絶妙。2人の空気感や日常がすんなり馴染み、ジェンダー問題を取り上げながら誰もが共感できる。いま改めて思うのは、果たして自分はありのまま正直に生きているのだろうか？そう問題定義しつつも重く見せない理由のひとつが、物語の大事な要素である“料理”だと思う。原作から映像化に至るまで、制作陣の大変繊細な気遣いが感じられる作品。

桑山 ゆうり

特別賞
SPECIAL PRIZE

倉内 均 （元アマゾンラテルナ代表取締役会長、第8代ATP理事長）

夫人の倉内明子さんにトロフィーが授与されました。

受賞者コメント

主人はATPの活動に熱心に取り組んでいましたので喜んでいると思います。テレビの面白さとは、様々な立場の人が平等に話し合って作る所だと主人は考えており、製作会社・外部スタッフ・局・クライアント・代理店・役者が各自のクリエイティビティを発揮した時に起こる出会いの奇跡を信じていました。人と人が出会う限りテレビは終わらないと信じていました。主人に代わり、製作者の皆様、楽しんで闘ってくださいと申し上げたいです。

倉内 均夫人 倉内 明子

推薦理由

製作会社一筋。ディレクター・プロデューサー、経営者として活躍し、2012年から2018年までATP理事長として製作会社全体の問題にリーダーシップを発揮。業界発展に大いに寄与した功績に対して特別賞を贈呈いたします。

風間 太樹 （AOI Pro.所属、「silent」監督）

代理でAOI Pro.プロデューサーの唯野友歩さんにトロフィーが授与されました。

受賞者コメント

この度はありがとうございます。思いを尽くした作品が、たくさんの方に観て頂けたことが何より嬉しいです。約3ヶ月の撮影期間を並走してくださったスタッフ・キャストに感謝致します。

監督　風間 太樹（AOI Pro.）

推薦理由

ドラマ「silent」のTVer配信において、各話で再生回数400万～500万回以上、最終的には総数7300万回を記録しました。テレビを見ないと云われる日本中の若者をテレビドラマの前に引き戻した功績に対して特別賞を贈呈いたします。

「タモリ倶楽部」制作チーム

番組に出演されたタモリさんにトロフィーが授与されました。

受賞者コメント

この度はATP賞特別賞を頂き有難うございます。1982年10月9日に放送を開始、2023年4月1日に最終回を迎えました。流浪の番組として多種多様な数々の企画を独特の世界観でお届けしてまいりました。41年間有難うございました。制作にかかわりこのような賞を受賞させて頂き光栄に存じます。支えて下さりました視聴者様、出演者様、テレビ朝日様、ハウフルス様と全ての関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

プロデューサー　富樫 孝行
（田辺エージェンシー）

推薦理由

タモリさんのムーブメントを作り40年という長きにわたり番組を放送。さらにはバラエティを目指す若いクリエイターの憧れとなった番組を制作した「タモリ倶楽部」制作チームの功績に対して特別賞を贈呈いたします。

総務大臣賞
MINISTER OF INTERNAL AFFAIRS AND COMMUNICATIONS AWARD

優秀賞とW受賞！

脚本　バカリズム（マセキ芸能社）／音楽　fox capture plan（Playwright/disk union）
演出（1/2/3/4/8/9/10話）　水野 格（日本テレビ放送網）
演出（5/6話）　狩山 俊輔（日本テレビ放送網）／演出（7話）　松田 健斗（BRUISE）
チーフプロデューサー　三上 絵里子（日本テレビ放送網）
プロデューサー　小田 玲奈（日本テレビ放送網）、榊原 真由子（日本テレビ放送網）、柴田 裕基（AX-ON）、鈴木 香織（AX-ON）

日曜ドラマ
ブラッシュアップライフ

AX-ON／日本テレビ

受賞者コメント

放送・配信をはじめ、ドラマを見ることができるメディアが多様化した今、このドラマを制作する上で当初から目標としていたのは、世界に誇れるドラマを作ろうということでした。バカリズムさんの素晴らしい企画・脚本を中心に、スタッフ・キャストがアイデアを出し合い、それぞれの力を最大限発揮してくれました。皆が一丸となり、作品のブラッシュアップを繰り返した結果、優秀賞に続き総務大臣賞まで頂き、大変光栄に思います。

プロデューサー　柴田 裕基（AX-ON）

講評

リアルな日本の日常に興味を持つ海外の方々も楽しめるドラマであると同時に各国ならではのリメイクが成立する可能性を秘めた優れたフォーマットを有したドラマでもあるということで審査員の意見も一致し、選出に至りました。正に「海外の評価に耐えうる個性的な演出」を選考基準とする総務大臣賞に相応しい受賞作です。

吉村 文雄

＼ 節目に向けて今年度よりトロフィーが一新！ ／

ATP賞では第40回を目前にした今回、トロフィーを一新いたしました。
新しいトロフィーは、アーティストであり東京藝術大学長の日比野克彦（ひびの かつひこ）氏により、
『制作』というコンセプトのもとデザインされた繊細なもので、富山県高岡市の職人の手で完成しました。
このトロフィーは受賞式直前の記者懇談会で初披露され、日比野氏も会見会場に登壇いただきました。
また、受賞式会場では、日比野氏からデザインに対する想いと
映像製作者へのメッセージも上映いたしました。

日比野克彦　ひびの かつひこ

1958年岐阜市生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科修了。
1982年第3回日本グラフィック展大賞、1983年第30回ADC賞最高賞、
1986年シドニー・ビエンナーレ、1995年ヴェネチア・ビエンナーレ出品。
1999年毎日デザイン賞グランプリ、
2015年文化庁芸術選奨芸術振興部門文部科学大臣賞受賞。
2007年より東京藝術大学教授。2022年4月より東京藝術大学長に就任。
他の主な要職として、岐阜県美術館長、熊本市現代美術館長、
日本サッカー協会社会貢献委員長を務める。

総評 COMPREHENSIVE EVALUATION

創り手自身の主体性とオリジナリティを

審査委員長
松葉 直彦

創り手自身が選ぶ…ATP賞の一番の特徴だが、とにかく難しい。第39回は応募全170作品、総尺14000分余り。そのどれもが新しく深く優しく、刺激や発見の連続、ときに客観性を忘れ嫉妬にもかられる。そんな幸せな時間をいただいたことに、深く感謝申し上げます。「創り手自身の主体性とオリジナリティを」という審査方針の下、議論を尽くしました。ドラマ部門は、レギュラーもスペシャルも例年にも増して秀作ぞろい。韓流を中心とした配信プラットフォームの台頭に、繊細に力強く反応した制作陣の意気込みを強く感じました。逆に情報・バラエティ部門は、アイディアは光るも時代を象徴するような作品になかなか出会えず。コンプライアンス重視と予算削減という二つの大きな波に翻弄されていると、自戒も込めて感じざるを得ませんでした。ドキュメンタリー部門は最多の78作品。瞬間を狙う姿勢、長期取材、新たなアプローチ、初めて知る世界や歴史、その奥深さやリアリティ…、充実の作品群。審査は長時間に及びましたが、SNSを駆使した全く新しいスタイルの取材を実現した新人の作品を、満場一致で最優秀賞に選びました。映像コンテンツ表現の可能性やさらなる広がりを、若いチカラが証明してくれた。今回はそんなATP賞だったと感じています。

部門講評 DIVISION REVIEW

● ドキュメンタリー部門 ●

製作者のバトンが受け継がれるように

コロナ禍は3年目に。そしてウクライナへのロシア軍侵攻により時代の空気が一変した2022年。エントリー番組78本にも関連の番組が多数含まれ、各製作者がこのテーマに立ち向かっていったことを証明した。最優秀賞の「ブラッドが見つめた戦争」は、主人公の自撮り映像を中心にしたネット社会ならではの新たな手法と入社2年目の若手ディレクターの企画である点が評価された。優秀賞の「竹花センセイ！」は圧倒的な取材力に感嘆し、同じく「通信簿の少女を探して」も取材者の執念の物語でもあった。時代を切り取る製作者のバトンが、次世代にも受け継がれるように、志を持った番組が正当に評価されるように、そんな願いが込められた各賞である。

審査委員　戸田 有司

● 情報・バラエティ部門 ●

コンテンツのごった煮こそ作り手の気概の賜物

ATP賞の大前提は「創り手のための賞」であること。だから、ひとりの制作者としてリスペクトできる、自分もそんなのを作ってみたいと思える、“新しいシステムをもつ番組”を評価したい。が、審査は難しかった。▼ゴキブリの本音を伝える科学番組▼消えゆく個人店への密着▼オンラインプレゼン風の歴史エンタメ▼業界人の恐怖体験トーク＆再現ドラマ▼有名俳優のアートドキュメント▼文字がつくる人類史の光と影…以上は受賞番組だが、これらが同じ土俵に立っているのだ。「何を」「どう」伝えているかなどと分析しても、物差しとしてナイーブな気もしてくる。でも、このコンテンツのごった煮こそ、新たな視点で番組を生み出す、作り手の気概の賜物である。

審査委員　光原 朋秀

● ドラマ部門 ●

社会現象を巻き起こす力がテレビにある

近年、テレビドラマは原作小説や人気コミックスの映像化が主流だったが、今回応募された作品群には、オリジナルストーリーの力作が並び、今までにない新しいドラマを作ろうとする製作者の意気込み、熱意を感じる作品が目立った。放送と配信の融合が進む中で、世界に通じるコンテンツを作るべく、様々な表現方法を模索する製作者の皆さんの奮闘努力に、私自身、大きな勇気と力を頂きました。テレビ離れが叫ばれるなか、最優秀作「silent」のように、視聴率だけではない複数の番組指標で高い評価を得て、社会現象を巻き起こすほどの大ヒットを生み出すポテンシャルが、テレビドラマにはあると思います。これからも、視聴者の心を震わす良質なドラマが多く制作されることを、切に願っています。

審査委員　八巻 薫

新人賞総評 NEWCOMER AWARD REVIEW

拡大する映像ビジネスでの活躍に期待

新人賞審査委員長
大野 光浩

コロナ収束を受けてか昨年より多くの出品があった事は何より嬉しく思います。番組に関わるたくさんの先輩達の中で、新人クリエイターがどのように関わり、どんな思いで、どんな努力を重ねたのか？自らの新人時代を思い起こしながら拝見しました。その結果、優秀賞・奨励賞の該当12作品は審査員5人に大きな異論はなく決まりました。作品のそれぞれにセンス、粘り、着眼点、編集力、行動力など、きらりと光る才能を感じとることが出来ました。この先彼らがどんな経験をしてどんな作品をつくるのか？考えるとワクワクします。拡大していく映像ビジネスの中でさらなるご活躍を期待しています。

総務大臣賞総評 MINISTER OF INTERNAL AFFAIRS AND COMMUNICATIONS AWARD REVIEW

選考基準に相応しい受賞作

総務大臣賞審査委員長
吉村 文雄

本年度の総務大臣賞は、審査委員全員から高い評価を受けた「日曜ドラマ ブラッシュアップライフ」に決定いたしました。タイムリープという大掛かりな設定にもかかわらず内輪のストーリーが展開されるというバカリズムさんらしい奇抜な発想が秀逸であり、主演の安藤サクラさんをはじめとするキャストの方々が繰り広げるひたすら日常的な会話や「あるある」ネタが独特の緩い雰囲気を醸し出し、回想シーンの年代に応じた細かい装飾へのこだわりや劇映画のようなトーンの映像も相まって上質なヒューマン・コメディーとなりました。審査の過程で「海外で内容が理解されるのか」という議論にもなりましたが、リアルな日本の日常に興味を持つ海外の方々に楽しんでいただけるドラマであると同時に各国ならではのリメイクが成立する可能性を秘めた優れたフォーマットを有したドラマでもあるということで審査員の意見も一致し、選出に至りました。正に「海外の評価に耐えうる個性的な演出」を選考基準とする総務大臣賞に相応しい受賞作です。

総務大臣賞 ノミネート作品

● ドキュメンタリー部門 ●

- BS1スペシャル　**沖縄戦争孤児**　前編・後編　NHKエンタープライズ／NHK BS1
- **勝敗が決まる瞬間　2022 ～ドキュメント 小倉百人一首競技かるた高校選手権～**　前編・後編　ノット、NHKエンタープライズ／NHK BS1
- **GIGAKU！踊れシルクロード**　前編 インド・バリ・ジャワ編 ／ 後編 中央アジア・中国編　吉本興業／NHK BSプレミアム

● 情報・バラエティ部門 ●

- **ヴィランの言い分　ゴキブリ**　クリエイティブネクサス、NHKエデュケーショナル／NHK Eテレ
- BS11開局15周年特別番組　**アートミステリー　国立西洋美術館誕生秘話モネを救え！**　ドキュメンタリージャパン／BS11

● ドラマ部門 ●

- **ふたりのウルトラマン**　東京ビデオセンター、NHKグローバルメディアサービス／NHK BSプレミアム、NHK BS4K
- 正月時代劇　**いちげき**　TBSスパークル／NHK 総合、NHK BS4K
- 日曜ドラマ　**ブラッシュアップライフ**　AX-ON／日本テレビ